

第31号

発行所 大阪市史跡 龍溪禪師墓所
 靈 龜 山 九 島 禪 院
 〒550-0022大阪市西区本田3丁目4-18
 ☎06-6583-2725
 発行人 住 職 奥 田 啓 知 (智證)

大阪にオリピックを!

九条に中華街を!

来年は二十一世紀です!

介護保険に一石

何より必要な家族の温かさ

深刻化する高齢者の介護を社会全体で支えようと、平成九年十二月に成立した介護保険法が来々四月から導入されます。

介護サービスの費用は、四十歳以上の国民から徴収する保険料と公費、サービス利用者の一部負担で賄い、六十五歳以上の高齢者と四十〜六十四歳で初期の痴呆症や脳血管障害など十種類の病気にかかっている人が、要介護認定の後、サービスが受けられる事となります。

ただ、介護保険制度をめぐる政府・与党の政策協議の調整が難航し、四月実施までに紆余曲折が予想されますが、今後ますます核家族化や小子化により老夫婦世帯が増え、老人が老人を看護することが予想され結構なことだと言えます。

「市長の代わりはいても、夫の代わりはいない」パーキンソン病が進行して寝たきり状態の妻の介護に専念したいと辞職した高槻市の江村利雄市長(七十歳)は、家族の協力も得て交代で介護をしたが、家族だけの

介護では負担が大き、家の中がピリピリして「はよ死なな」とまで思ったそうです。

一生懸命介護すればするほど憎さ百倍になるもので、そうなる前に、家族ができるのはここまでと決めて、あとは外部のサービスを活用すべきで、六〇七割の力でやれば、余裕もできて楽しくできる。介護を受ける者にとっても、その方がずっといいとも主張されています。

仏教では「知恩(ちおん)」という言葉があります。恩返しよりも、「恩を知れ」と教えています。例えば、父母の恩が返りませんが、ただ単純に父母に恩返しをしるとは説いていないのです。恩返しをすればいいのなら、いただいた恩を小さく見積もり、自分が返したものを過大に評価するようになり、子はこれだけ返せば十分だろうと思親のほうはまだまだ十分に返してもらっていないと考え、親子関係がギスギスしてくるから、父母が自分たちに何をしてく



れたか、その恩をしっかりと知るようにと教えているのです。父母が私たちに生命を与え、そして育ててくれた。その苦勞を如実に知ったときに、強制されることなく、私たちは父母に対して感謝の心を持つからです。感謝の心さえあれば、たとえ介護サービスを受けようとも、私たちは間違いないく父母を幸福にできるのです。

養護施設に入っている、家族がしょっちゅう来る方とそうでない方とでは行動が全然違うように、家族の心の介護、言葉の介護こそ必要であるとは、江村市長の言葉です。

物理的な介護は他人にできて、ほめたり、くさしたりして気力のなくなつた病人に活を入れられるのは家族にしかできません、先頃亡くなつた俳優市川右太衛門さんの「老人ホーム死」をみてわかるように。

